

2020 年 社長年頭挨拶 (2020 年 1 月 6 日)

新年明けましておめでとうございます。

皆さんとこうしてまた、2020 年（令和 2 年）のお正月を厳かに且つ健やかに迎えることができました事は、私にとっても大きな喜びであります。

今回は 9 日間と長めのお休みでしたので、皆さんも十分に休養、リフレッシュされたかとは思いますが、一方で、リテイルビジネスに携わる一部の方々には、休日中の出社や、得意先からの連絡にも対応して頂きました。例年のことではありますが、大変ご苦労様でした。

いよいよ 2020 年がスタートします。この一年が皆さんにとって、またわが社にとっても充実した良い一年となる事を先ずは祈念致します。

さて、昨年を振り返ってみますと、世界情勢としては先ずは米中の貿易摩擦が長引き、日本を始め関係各国の経済に大きな影響を与え、また英国の EU 離脱が決定的となった事や、香港での民主化運動と大規模デモの拡大など、地政学的なリスクも高いまま依然として混沌とした状況が続きました。

一方、国内に目を転じますと、今年の 5 月には第 126 代天皇陛下が御即位され、元号も 30 年続いた平成から、新しい元号「令和」に改まる、大きな節目となった年でもありました。



6 月に大阪で開催された G20 大阪サミットでは、これからのわが社のビジネスに大変関係の深い環境問題について、かなり集中した討議が行われました。

10 月には消費税の引き上げがありました。これにより消費税は従来の 8% から 10% へ引き上げられましたが、この対応としてのポイント還元政策が導入された影響もありキャッシュレス化は一気に加速している状況です。

昨年は、一昨年同様大きな自然災害に見舞われました年でもありました。記録的な大雨や何十年に一度といわれる大型台風が続けて発生し、被害に遭われた関係者の方々に改めてお見舞い申し上げるとともに、緊急対応における皆さんの頑張りにも感謝をしたいと思います。しかし、このような気候変動のパターンは将来も継続するとも見られており、昨年同様の自然災害が今年も発生しないとは限らず、常に事前の十分な注意を怠ってはならないと思います。

わが社においては、昨年初めての海外拠点として、Mitsubishi Corporation Packaging America、通称 MCPA を 2 月に米国シカゴに設立し、7 月に駐在員を派遣しました。まだスタートしたばかりですが、わが社のグローバル化を更に進化させていくべく、全社を挙げて育てていきたいと思っております。皆さんも是非応援をして頂くようお願い致します。

さて、このような状況のもとで新しい年を迎えたわけですが、引き続き英国・EU の動き、中国の今後の動静、また 11 月に大統領選挙を控えたアメリカの動向、更にここに来て急激に緊張が高まっている中東の情勢など、日本を取り巻く世界の情勢は予断を許さない状況が続くと思われまます。

一方、日本においては何と言ってもオリンピックが 7 月に開催され、日本選手の活躍も期待されています。昨年のラグビーワールドカップの全国での盛り上がりから考えると、オリンピックに向けた活気と熱気の高まりは国中で大いに期待できると思っております。物流や通勤などの混乱は予想されますが、如何に適切に対応していくかもこれからの課題となります。

ここで環境問題について触れておかなければならないと思っております。

環境問題への対応は、わが社のビジネスにおいても大きなテーマとなります。数々の災害をもたらした地球温暖化の原因と言われている CO2 の問題、また海洋プラスチックや大量に廃棄される所謂プラスチックごみの問題、これら課題への対応はもはや如何なる企業活動においても避けて通ることはできず、パッケージビジネスに携わるわが社としては、一丁目一番地の課題と認識しています。この意識は先ほども言いましたがオリンピックの開催に向けて益々高まって行くと思っております。

日本の高度成長期においては大量生産・大量消費が進み、所謂流通革命が進行する中で、スーパーマーケットや大型小売店舗が出現した事により、包装・パッケージの形態や役割も大きく変わりました。この波に乗ってわが社のビジネスも確立し、成長を続けてくる事が出来ました。しかしながら約半世紀が経過し、ここへ来て世の中が大きく変わってきていると言う事です。

環境問題への対応という事が優先して考えられるようになり、包装・パッケージに対する市場や顧客のニーズも大きく変わってきています。

わが社としても迅速に対応し、自らの発想を変えて行かないとなりません。



ここで変わらないと5年後、10年後わが社が生き残って行く事は難しいと、それ位の危機感を持って仕事に臨んで頂きたいと思います。

わが社の組織に関連して2点お話し致します。

わが社において、長年に亘り洋紙の輸出取引を行ってきた貿易事業部ですが、ビジネスを取り巻く環境の変化もあり、一定の役割を終えたことから、3月末には発展的に解散する予定となります。

貿易事業部の所属員については、既に何人かの方には別の部署で大いに活躍頂いています。これから異動される方も、貿易事業部での貴重な経験を活かせるよう再配置するつもりですので、今回のことを是非チャンスと捉えて、新たな仕事に挑戦して頂きたいと思います。

また、門前仲町にて、わが社の受発注部門担っているロジスティクスオペレーションセンターを5月の連休明けから日本橋の本店に移動させることになりました。営業部と距離が近くなることにより、連携が今まで以上にスムーズに行えると考えております。

本年4月から始まる2020年度は、わが社の中期経営計画「Professional PRIDE's 2020」の最終年度となります。これまでにお話した通り、様々な環境の変化により、定量的な目標の達成は容易では無い状況になりましたが、定性的な目標、即ちわが社に新たな機能を創造し強化を図って行く事においては、新しい時代の礎を築くつもりで施策を推し進めて下さい。是非全員の力を合わせて、中経目標である「包装業界のリーディングカンパニー」を目指していきましょう。

今年の干支は、「庚子（かのえ・ね）」で、新しい芽吹きと繁栄の始まりを意味しているそうです。また、全く新しい事にチャレンジするのに適した年だとも言われています。

わが社としても、全役職員それぞれが当事者として一体感を持ち、過去に囚われない柔軟な対応で、新しいビジネスの芽吹きを育て、更なる繁栄に向けてチャレンジする年にしていきたいと願っています。

最後になりますが、毎年お願いしている通り、今年も法令遵守、コンプライアンスを最優先で進めて頂きたいと思います。

本年が、わが社にとって、また、皆さんにとって、充実した輝かしい1年となるよう、一緒に力を合わせて頑張ってください。

以上